



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 22 年 10 月 7・8 日(木・金)
高速道路交流推進財団の視察 編

初夏の頃から、財団企画部の田中武昭さんと日程調整をしながら準備を進めてきた視察がようやく実現しました。視察団は、元 NHK 解説委員でもある山田吉孝委員、田中さんの上司・西村卓也さんと田中さんの 3 人です。第一観光のジャンボタクシーを借り上げ、2 日間、私たちの活動や資源、悩みを知っていただくために、盛りだくさんのスケジュールをこなしていただきました。

秋田空港から木高研までの道中では、都会とは大きく異なる秋田・能代の高速道路や交通事情を身をもってご理解いただけたのではないのでしょうか。木高研では、これまでの活動の実施状況や今後の予定の説明後、質疑応答がありました。活動全体は概ね高評価を得ていたように思いますが、広報強化のためには放送する側の知恵も借りながら全国発信できるよう働きかけたら良い、「白神」というネームバリューを「のしろ」に結びつけることを考えたら良いといったアドバイスもいただきました。より良い活動にするべく、できることから始めていきたいと思えます。

木高研の実験棟もご覧いただいたあと、最初に向かったのは浅内。日本海に向かって風車が立ち並ぶ風景もさることながら、ここは夏に全国から大学生が集まる宇宙イベントの開催場所。「教育」は NW の活動のキーワードの一つですが、観光の可能性も大いにあります。ほっとステーションで始めた大学生受け入れの取り組みを紹介しました。

その後、嫁見祭り会場となる日吉神社と井坂記念館に向かいました。ここは、木都能代の父・井坂直幹の偉業を広く知ってもらうためにつくられたところです。事前にホームページで休館日を確認していたにも関わらず、行ってみると冬期閉館中！視察団からは、今年の嫁見祭り開催時の実績を考えると、行政がもっと積極的に「木都」の観光拠点の一つとして広報・企画をすべきではないか、行政ができないなら NW が定期的にでもイベントを実施して、観光資源として活用してはどうかとの意見をいただきました。

木材を活用した公共施設、学校は他にはない能代では重要な資源です。できたばかりの第四小学校と常盤小中学校にも足を運んでいただきました。木造校舎の活用は市民が「木」を見直す契機になり、NW の取り組みにも理解を得られるようになるのでは？といった意見をいただきました。



時には厳しい指摘もありましたが、終始和やかな雰囲気での活動報告会でした(上)。研究所の実験施設もご案内しました(右)。



風車が並び、草むらが広がる何も無い風景も夏のイベントには必要な資源です。



井坂さんの偉業を知れば知るほど、現在の扱いに疑問がわいてきます(上)。屋間以上の意見交換がなされ、交流会も大いに盛り上がりました(下)。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

2日目は財団の支援で作製した活動PRポスターと専用木製パネルをご覧いただくため、八峰町の道の駅からスタートです。当初は手這坂のほかに留山も視察先に入れていたのですが、先の大雨で道が崩れ、復旧の目処が立っていないことから今回は急遽取りやめになりました。

その分、大高孝雄会長の案内で手這坂をじっくり見ていただきましたが、素材の魅力は十分にご理解いただけたものの、厳しい現状を打破する明快な解決策は見出せませんでした。

その後は、今後の活用が期待される山谷分校、多様な木材活用がひと目でわかるようになってきた毘沙門憩いの森公園に向かいました。いずれも素材の良さは理解していただけたものの、地元や市の頑張りや支援が必要ではないかとの意見がありました。

昼食後は中心市街地に向かい、相澤銘木、ほっとステーション、平山秤店、金勇を回りました。

相澤銘木ではいつもお世話になっている信太さんのご案内で工場内を見せていただき、集成材のできる過程や住宅の柱がどのようにできているかを知っていただきました。そうした技術が、既に金勇の一間に取り入れられていることは、観光ポイントの一つではないかと思えます。

平山秤店では、古い地図などを山田さんにみていただいたり、ほっとステーションをもっと活用するようアドバイスをいただきました。

盛りだくさんの2日間で、参加者みんなが大変だったと思いますが、これまで同様、いただいたご意見やアドバイスを少しずつでも確実に実行していきたいと改めて感じました。するか、しないかで差は大きく開きます。自分たちで手に負えない時は、外の専門家の方々の手を借りて、少しでも前に進められるよう、上手に活動支援金を使っていきたいと思えます。

文：渡辺 千明



活動の拠点。上町にあるほっとステーション。集客・情報発信拠点として、定期的に活用していくことも必要です。



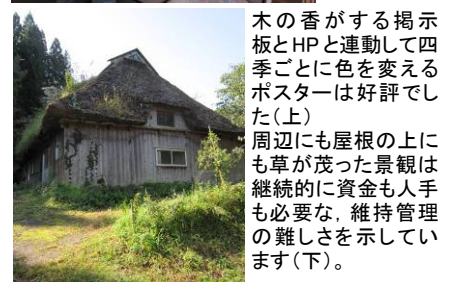
毘沙門憩いの森公園では、地域の方々と大学・企業が協働で木質土木構造物を使って整備していますが、市民への周知やその活用が今後の課題です。



四小ではお迎え看板が用意されていました(上左)。思わず走りたくなる長い廊下(上右)。図書室には学校からの遠景がステンドグラスになっています(下)。



フリースペースいっぱいの常盤の学校(上)。2日目の昼食は常盤交流センターでときめき隊ご自慢の品々。大好評でした(下)。



木の香がする掲示板とHPと連動して四季ごとに色を変えるポスターは好評でした(上) 周辺にも屋根の上にも草が茂った景観は継続的に資金も人手も必要な、維持管理の難しさを示しています(下)。